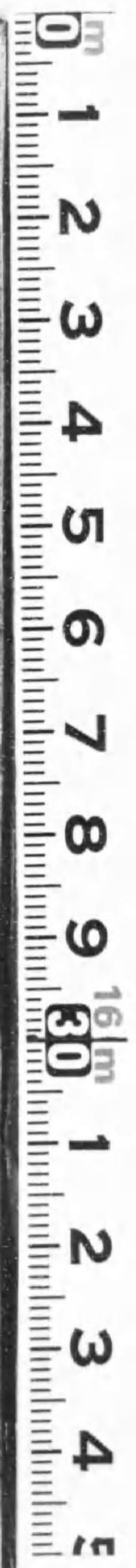


312  
229

篇七廿第書叢科百用實友之婦主

條百訣秘合和婦夫

行發及輯編 社友之婦主 葦河駿京東



始



時220  
74



主婦之友實用百科叢書

第二十七篇

夫婦和合の秘訣百ヶ條

發行所

東京市  
駿河臺

主婦之友社



喧嘩の相手役として、嫁すものもなければ、娶るものもない筈。それでいて、世上、夫婦喧嘩の少からざるは、何故でせうか。恐らく喧嘩する御當人たちも、その理由を御存知ないことであらう。さるにても夫婦喧嘩とは、馬鹿らしいことの極みである。然らば夫婦喧嘩を掃蕩して、大いに家庭の圓滿振りを發揮する道ありやといはゞ、内に秘訣の百ヶ條があります。内容は讀めば直ぐわかり、效驗は試みて忽ちあらはれること確實です。筆者が誰であるか、本書の讀者にはかういふ詮議立する野暮な人はない筈であります。とにかく、一度味讀してください。

### 『主婦之友實用百科叢書』の編輯發行に就て

◇私どもが生きてゆくためには多くの知識を必要とします。その知識を得るためには、どうしても書籍に就かねばなりません。ところが、これまでの書籍は一つの必要な知識を得るために、多くの不必要なこともまで讀まねばなりません。それは忙しい生活の今日、多くの人には許されぬことであります。

◇生活上必要な知識を、確實に、そして手取り早く得る方法として、『主婦之友實用百科叢書』の編輯發行を企てました。この叢書は婦人や家庭の生活に缺くことのできぬ實際的知識を、雑誌『主婦之友』の編輯と同じやうに、確實、親切、簡單を旨として、提供することにとめました。

◇従來の書籍に、一つの缺點がありとすれば、それは定價の高といふことであります。この叢書は、それらの方面にも幾分の改良を施し、一冊六拾錢でわかつことにいたしました。この叢書の一冊でも御覽になつた方で、もし私共と御同感の方がございましたら、この叢書を一冊でも多く御覽のうへ、この叢書の目的の達成に御盡力のほどをお願い申します。

昭和二年七月二日

主婦之友社編輯局にて  
石川武美

### 第一條 和合に満足してしまはぬが秘訣

戀愛が青春の花ならば、結婚は人生の實を結ぶのでせうか？  
いゝえ、結婚は雄蕊の花粉が、初めて雌蕊の上に、契を交す禮典なのである。人生の實を結ぶのは、その日から後の家庭生活に、朝夕築かれて行く、夫婦愛の營みによらねばならぬ。新婚既婚の方々よ！あなた方の和合の實は、今から將來へ、日に結ばれてゐることをお忘れあるな。

### 第二條 水蜜桃を食るとききの注意が秘訣

水蜜桃の甘い露を味ふときに、あの薄い皮を大事に取らなかつたら、中味の肉に傷がつく。いそがず、あわてず、ゆつくりと、滴る露をこぼさないやうに、おもての皮を取つてしまつてから、終りまで靜かに食べるのが、水蜜桃の甘露を味ふ秘訣である。熟してゐないうちに、無理に性急にムシャクやりかけるなどは、何と不風流な仕打だらう！

### 第三條 記念寫眞帖を作りおくのが秘訣

新婚のときの寫眞を第一頁に貼りませう。新婚旅行の途中のそれも、買った繪葉書も、それから、年に一度は、何んな小さな寫眞でも、二人で撮つて貼りませう。その時折の感想や、歌や俳句なども、できるだけ書添へませう。かうして段々に増して行く二人の寫眞帖には『お前百までわしや九十九まで』の魂が籠つてゐます。無論、そこには坊やの寫眞も。

#### 第四條 新婚時代の不安に氣づくが秘訣

生れた家から新家庭へ入つて來た新妻の不安は、初めて主人になつた新郎の好奇心よりも、比べやうがないほど深いものである。新婚時代の良人の同情ほど、妻の力になるものはない。新妻の胸に漂つてゐる、言ひやうのない不安を、新郎が讀みとる氣づかひと、いたはりと、慰めと、これが他の何ものよりも和合の第一歩を堅める秘訣である。

#### 第五條 二人だけの言葉を作るのが秘訣

他人には解らないが、二人だけに通用する言葉が、夫婦の仲に、少くとも二つや三つはあるものだ。符牒のやうなこれは、親愛を現す貴重なるものである。新婚時代にできた言葉なら、尙ほ宜しい。甘美なこれを、永く保存して使ひませう。二人の仲だけで使ひませう。倦きも倦かれもしない、夫婦仲といふ氣持は、かうした言葉からも生れるものである。

第六條 鏡の前での秘密を守るのが秘訣

鏡の前の秘密だけは、永遠に守るのが賢い妻の心掛です。『どうして君はそんなに綺麗なんだ!』と、良人を恍惚と、悦に入らせる化粧の秘密、これが本當に大切である。眉墨を塗るところや、クリームを擦込むところなどを見られるのは嚴禁です。妻の美を保つべく、良人も鏡の前の妻を探偵してはならない。美しいところを見る機會は、他に澤山ある筈。

第七條 笑聲の變化に氣をつけるが秘訣

良人だからといって主人振つたり、妻だからといって賢夫人振つたりは、お互によませう。良人はあくまで童子の氣持を、妻はいつまでも處女の氣分を、——初々しい香ひを持ちつゞけませう。家庭の清新な空氣は、この初々しさから生れる。笑聲が、新婚時代と違つてきたら氣をつけなさい。愛する限り、笑聲は永く初々しいものです。

第八條 愛してから後理解するのが秘訣

『こんな女だとは知らなかつた。』『まあ呆れてしまつたわ。』とはどちらも悪い。愚かさを自覺しないからである。想ひもしなかつた缺點が、結婚生活に現れて來るのは、人間として當然であるのを、前以て覺悟しませう。そしてそのときは、理解してから愛するといふ、間緩い態度は止しませう。愛して理解するこそ、夫婦愛の特別な味のあるところです。

第九條 お互の體質を理解し合ふが秘訣

性格や氣分を理解し合ふよりも先に、何よりも早く、お互の體質を充分に注意し合ふのが肝要である。性格や氣分は、誤解しても取還せるが、體質を理解し損ねたら、意外な歎きを、後まで長く残し易い。愛し愛されてゐながら、どうもシツクリしないといふ夫婦仲が多いのは、體質の誤解から來てゐるのが十中の九までさうである。

第十條 喧嘩は早くしてしまふのが秘訣

夫婦喧嘩をすることがあるなら、今のうちに、一刻も早くしてしまひなさい。したい喧嘩の貯蓄は嚴禁です。貯めておいて一時に、など、といふのは以ての外だ。取還しのつかない、深い争ひや呪ひなどは、初めは些細なことが、段々に重なつて起るものである。争ひの芽生えは、双葉にならぬうちに摘み取るやうに！これを二人が堅く言合しておきませう。

第十一條 喜悅と感奮とを忘れないが秘訣

他人の窺知を許さぬ夫婦間のさゝめ言や、喜悅感奮は、いつまでも忘れないやうになさい。この美しい印象が、苦しいときには力になり、悲しい折には慰めとなり、または幻滅を回復する清新な想ひ出にもなるのである。何かの苦難に、二人が直面したとき、しつかりと二人を結び合すものは、この喜悅と感奮である。



第十二條 妻の働きを理解してやるが秘訣

良人の職業の内容を知つてゐる妻はあつても、妻の仕事の苦勞を理解してゐる良人は少い。どんなに働く良妻でも、餘り無造作に使はれすぎると、反感を萌し易いものである。普通の家庭で、箒を持つことのない良人は、それほど無情でゐられるのを感謝するが好い。愛妻を雑巾のやうに思つて、然も、和合を望むのは、餘りに蟲がよすぎる。

第十三條 訓練と指導とを與へるのが秘訣

結婚して、性の祕密に驚く機會は、良人よりも妻の方に多いものである。この驚きを、何とも思はない良人の手には、和合の鍵が失はれてゐる。驚き以上に苦しい經驗を、決して妻に營めさせないやうに、いとも静かな訓練と自らなる指導とは、妻の驚きを悦びにかへる和合の基である。良人の親切といふことは、このときこそ、妻の身にしみるものである。

第十四條 結婚前の理想に囚れぬのが秘訣

結婚前の理想が、どうしても實現されなかつたら、悲しむよりも、理想を新しく更へるのが一番賢い。家庭生活の現實を知らずに描いてゐた理想よりも、知つてから、新しく計畫する理想の方が、確かに貴いことを自覺なさい。いつも新しく、互に新しく、毎日新しく！ さうすれば倦怠や幻滅の悲しみは、古い理想と一緒に消えて行く。

第十五條 互に友人關係を知合ふのが秘訣

良人の交際の範圍を、外のことだからといつて、妻が少しも氣にせずにおたり、妻のお友達の様子を、女同志のことだからと思つて、良人が無頓着でゐたりは、どちらも愛の道に缺けてゐる證據だ。信頼と放任を履き違へてゐるうちに、意外なことが、意外なところで、行はれてしまつたら、もう遅い。悪友の誘惑は、何時何處にあるかも知れないのだから。

第十六條 家庭の秤を水平にするのが秘訣

どんなに愛し愛されても、家庭は二人の共有といふ、平凡な眞理を忘れたら、愛しすぎて和合を破る危険がある。主人第一に偏すると、無情で威張る良人が出来易く、奥様中心に崇めると、増長して氣儘な妻が出来易い。家庭の秤は水平に！ どちらが重くされてゐるかを話してみても、『君の方に傾いてるぜ。』あなたの方だわ。』とあつたら萬歳である。

第十七條 悦びの相槌を打つてやるが秘訣

妻が新調の物を擴げて、悦に入つてゐるとき、『これ、どう？』と尋ねずにはゐられないのが、女性の本能である。それを傍から『フン。』など、鼻であしらふやうな良人があるなら、女性が何であるかも知らぬ、愚かな男だ。たとひ柄は解らなくても、『早く着て見せとくれ。』くらゐのことは、少くとも相槌を打つものである。良人のお手際は、かういふときに現れる。

第十八條 明い朗かな呼聲と返事とが秘訣

幸福な圓滿な家庭には、快活な刺戟が、却て多いものである。それなら、どうして生々した刺戟が造れるだらう？ 先づ、何よりも夫婦の呼聲と返事に氣をつけませう。『あなた！』『君！』『何？』『ハイ！』これが、明い朗かな聲で呼交されてゐるところに、和合は自然に湧いてくる。論より證據、今直ぐに試して御覽なさい。

第十九條 何なときでも匙を投げぬが秘訣

手を組んで、樂園に入つた筈の二人の仲が、どうも面白く行かないといふことがあるなら、樂園はこれからだと、氣がつかねばならぬ。家庭は夫婦愛の意味を體驗する、嚴肅な道場でもある。結婚したばかりで、幾年もたつないうちに、もう匙を投出すやうなのは、餘りに忍耐が無さすぎる。羨しいほど睦ましい夫婦仲は、苦い經驗の後に出來上るのが本當である。

第二十條 良人も妊娠の責任を負ふが秘訣

子供の教育は胎教から。それなのに、妊娠したのは妻だけの責任で、もあるやうに、済まし込んでゐる良人が少くない。妊娠が二人の共同責任である以上、胎教の効果を擧げるのも、良人が十二分に責任を負ふべきである。これこそ、夫婦は初めて一體だ。『子供を生むのは女のことだ』など、高く止まつてゐる無情な良人に、どうして和合が望めよう！

第二十一條 和合の箱は二人丈で開くが秘訣

結婚前の責任は、両親や親類や媒妁人その他の人が持つてくても、結婚後の責任は全部、式のその日から、夫婦自身が負ふべきものである。ところが、家計の不始末から、夫婦喧嘩までも、結婚前の責任者へ持つて行くやうなことがあつたら、どうして和合の箱が開かれようか。二人のことは二人です。和合の箱は二人だけで開けるのが第一條件である。

第廿二條 満潮干潮の調子を知るのが秘訣

妻が或るときは、香りも高い情炎に燃え、或るときは、非常に冷淡に沈んでゐるときがある。この格段な違ひに驚く良人は、妻の體質を知り盡してゐないのだ。どんなときに妻が熱情に溢れ、或は憂鬱であるかを仔細に観察するなら、潮の満干と同一の法則を発見する、そして、満潮のときには、飽くまでも満足、干潮のときには、静養を興へるのが和合の秘訣だ。

第廿三條 互に悦びを表現することが秘訣

親類や友達の家で、自分の良人や妻を賞められても、家へ歸つて来て、それを忘れてゐる人があるなら、これはお話にならない迂濶さだ。そのときは、尾緒をつけないまでも、『今日はすつかり賞められて来た。』『あたし本當に嬉しかったわ。』と自分が賞められたよりも悦びなさい。二人だけの仲では、何でも悦べば悦ぶほど、とてもシツクリするものです。

第廿四條 一人外出を繰返さないのが秘訣

家庭の外に、旨い食べものがあつたら、一人て二度以上、そこへ行くのは禁物である。三度目には、二人て食へに行きなさい。しかし、面白い見るものがあつたら、一人だけで、二度以上はもう厳禁です。二度目には二人揃つていらつしやい。それとも最初から、きつと二人で行くやうならば、それはもう、和合の秘訣を手に入れてゐる、恵まれた御夫婦です。

第廿五條 總ての物を共有とするのが秘訣

洋服のカラー一本でも妻との共有であれば、髷留一つでも良人との共有であるのが、切つても切れない夫婦仲といふべきである。家庭の中の塵一本でも二人の共有でないものはない。『あなたの物』『僕の物』などいふ差別が増長して來たら、どうして夫婦一體だといへるだらう？ 魂と肉體と物とを、一つに持つための結婚ではなかつたか。

第廿六條 二人で恒産を造り上げるが秘訣

親譲りの財産や持参金に手をつけたしたら、和合の土臺が崩れだす初めだ。たとひ一文なしの結婚でも、二人で『恒産』を造り上げる共同努力の上に、和合の天使が飛んで来る。互に貯金帳を見せ合ふ夫婦の仲に、悪魔が顔を出す隙はない。『どうしても貯金が出来ない。無理だわ。』など、言つてる間は、まだく和合の礎が堅まつてゐないのだ。

第廿七條 両方の親類を公平に見るが秘訣

自分の親類の方を良くする癖に、一方の親類を、冷く待遇することがあるなら、そこから隙間が、不平と一緒に頭を持ち上げる。まして、互の親兄弟の棚卸しや蔭口などは、冗談にしても禁物である。完全な夫婦愛は、お互の親類をも、愛で包んでしまふこそ眞實である。親類關係から夫婦喧嘩を惹起すなどは、愚かなやうでも、實例は澤山ある。



第廿八條 明るい方面を見て行くのが秘訣

憎いと思ふことができたなら、『しかし、かういふ好いところもある。』と思返すのに限る。どれほど悲しい生活でも、四方ともに眞暗といふことは決してない。一方の暗さは、別の方面の明るさで打消するのが上分別である。ちよつとした一時的の憎さを、全體へ擴げないやうに！ また、思返せば薄らぐ悲しみを、底の底まで取越して、思ひつめないやうに！

第廿九條 囁きの工夫を發見するのが秘訣

甘い柔かなお相手と、親愛な囁きの方法を、お互に新しく工夫しませう。それは千變萬化に、どんなにても新しく發見されるものである。こゝに愛を創造する秘訣がある。この新發見の悦びこそ、いつも愛を創造する。これを讀んで共鳴する御夫婦は祝福されてゐる。そのお二人の顔は明るい筈だ。讀んで疑ふ人は、互に思當るまで相談して御覽なさい。

第卅條 喧嘩は二人で解決するのが秘訣

たとひ始末のつかない夫婦喧嘩が起きてても、最後まで、二人の仲で解決すること。これが喧嘩の秘訣です。一度でも、親や媒妁人その他の人に、喧嘩の仲裁をして貰ふ癖がついたなら、尙ほまた、喧嘩の癖がつくものです。『出て行け』『出て行きますとも』と、かうは言つても、必ず二人の間で解決することを、怒つた口惜しい胸にもお忘れあるな。

第卅一條 早く似た者夫婦になるのが秘訣

男であれ女であれ、誰にも、各自の『型』がある。けれども、夫婦が一體になるためには、二人の型を、一緒にするのが近道だ。どんなに好きな型でも、日がたつと鼻につく。それよりも早く『似た者夫婦』になるのが秘訣である。いはゆる自由戀愛の結婚が失敗するのは、各自の型に倦くからだ。個性尊重は家庭生活では賞められない。

第卅二條 妻の訴へをば讀み取るのが秘訣

微笑しながらも、瞳の影に隠れてゐる妻の哀訴、この原因は本當に種々あるものだ。そして大概は、良人が原因を持つてゐる。讀者なる良人よ！今試みに愛妻へ尋ねてみるのが早道だ。『君は僕に何を訴へてゐる？』と。妻の返事は二人の和合の程度を示してくれるだらう。これを知らずに、和合の成長は望めない。無論、妻の哀訴は聞届けること。

第卅三條 葉書や手紙は互に讀合ふが秘訣

二人が、知つてゐるところへ手紙を書くときには、なるべく二人で書いて讀合ふこと。これは互の心持を理解する上に、意外に有效なものである。良人や妻が、どんな音信をしてゐるかを、少しも知らずにゐるやうな夫婦の間には、思はない際が出てくるものだ。たとひ、二人が一緒に書かないときでも、讀んで聽かせる習慣だけは、忙しくても守りませう。

第卅四條 時雨を暴風雨にしないのが秘訣

朝夕の氣分に、少しでもむらのない男女が、世界に一人でも  
ゐるだらうか。ゐるわけではない。だから、ちよつとした氣分の  
衝突を、夫婦の間の根柢にまで持つて行くのは止ませう。本  
當に些細なことから、意外な大衝突を惹起すなどは、誰にもあ  
る氣分の變化を、愛の問題にまで持つて來るからだ。どんな雨  
でも、必ず晴れる。時雨を暴風雨にしないやうに！

第卅五條 内外に不斷の夫婦共稼ぎが秘訣

妻が職業婦人でなくても、夫婦は常に共稼ぎのものである。  
臺所の切廻しが上手でなかつたら、どうして貯金帳に預入れが  
記入されよう。良人の收入に甘えてゐる妻も間違だし、貯金の  
額を一人で誇る良人も間違である。家運の盛衰は、共稼ぎの有  
無で定まる。毎日の生活は『あなたのお蔭よ。』『いや、君のお  
蔭だ。』と榮え行く和合こそ望ましい。

第卅六條 良人の意志を強くするのが秘訣

妻が想像してゐるほど、良人の意志は強くないのが普通である。だから良人に意氣地のないところがあつても、失望したり、輕蔑したりは斷じて止しなさい。まして、遠慮なく遣り込めるなどは、以ての外だ。良人の持つてゐる本當に好い自惚を、煽つても、傍から伸ばさせるのが賢夫人のお手際である。意氣地のない良人を強くする秘訣は、この他にない。

第卅七條 先づ相互の承諾を経るのが秘訣

上等の愛によつて、下等な衝動を良く調和するなら、そこに和合の天使が微笑してゐる。ところが、この二つの調和する程合は、本當にむづかしい。けれども、こゝに秘訣が一つある。といふのは他でもない。何でも二人が快く一つのことを成功しようとするなら、先づ二人の相互承諾を経なければならぬ。承諾なしに始める勿れ！これが唯一の秘訣です。

第卅八條 忙しき中でも妻を省るのが秘訣

良人が社會の仕事に熱心であるのは望ましい。といつて、家へ歸つてからも、その仕事に熱中しきつて、碌に口もきかずに、自分の部屋に閉ぢ籠つたりするのは、少くとも或る短い期間だけに止めること。これが和合の心得のある良人である。決して冷淡でない良人が、この心得を忘れたばかりに、妻の心や身を過らせた實例は、世間に少い數でない。

第卅九條 過去の事を並べ立てぬのが秘訣

むらくと口惜しまぎれに起きた、夫婦喧嘩のときでも、過ぎ去つたことを並べたてるのは、お互にお止しなさい。それを言ひ出したら最期、収まりがつかなくて、小な火の子が、大火事になり易い。このときは早く鎮火した方が勝ち、いつまでも並べたてゝある方が負けと、一秒でも早く悟つた方に、和合の天使は采配を上げる。負けるが勝とはこのことです。

第四十條 子・母・父の順序で行くが秘訣

暴君になつたり、女王になつたりは嚴禁であると同時に、子供が生れたら、小さいものを中心にするこそ、和合の基である。いかにも和氣霽々とした夫婦は、子供中心の家庭に多いものである。父・母子といふよりも、子・母・父の順序で行く家庭にこそ、愛は限りなく深められる。論より證據、御近所の家庭を二つ三つ見て御覽なさい。

第四十一條 第一の願ひを知り合ふが秘訣

良人の根本の希望が、妻の日常の願ひが、どこにあるかを、お互に知り合つてゐる夫婦は、幸福なお二人です。家庭生活の不幸の岐路は、本當にここにある。『あなたは何を私に求めてゐらして?』『君は何を僕に願つてゐるの?』——この二つの『?』が、ひつたりと合ふところに、しつくりと、水も洩らさない秘訣が隠れてゐるのです。

第四十二條 慎みと羞しさを保つのが秘訣

秘密は無論あつてはならないが、『おもはゆさ』だけは永遠にあつて欲しいものである。すべてを獻げ合ふ夫婦仲でも、度が過ぎて、餘りに赤裸々になると、いはゆる倦怠の危険を招く原因になる。『羞かしさ』の幕で掩ふことは、秘密を持つことではない。初めから慎しむ良人、何年たつても羞しがる妻、この夫婦愛こそ永續する。

第四十三條 独自の趣味に凝らぬのが秘訣

自分だけの趣味に凝ることは控へませう。良人に洋樂の趣味がないのに、妻が毎日ソプラノを張上げてばかりゐたり、妻にまるで興味がなない碁や將棋に、良人が夜更しを續けたりは、どちらにしても、たまつたものではない。相手の趣味が厭になると、その人間までが嫌ひになつてきたりする。趣味の同化の必要と一緒に、一人だけ凝るのは嚴禁のこと。



第四十四條 時と處との責任の實行が秘訣

良人は「時」の嚴守を、妻は「處」の整理を、きちんと互に實行  
しませう。「今日は何時に歸つて来るよ。」が、とかく遅くなつて  
来る良人は、疑はれるのが當然だ。「あら、まだ片付けておかな  
かつたわ。」が、とかく重なつてゐる妻は、眉をしかめられるの  
が當然だ。家庭が厭になりだす初めは、「時」と「處」の亂れから  
起き易い。

第四十五條 二人で收支を計算するが秘訣

俸給や賞與その他の收入から、そつと天引して、妻の知らな  
い支拂をもつ良人は、その用途が何であらうとも、以ての外  
悪人である。けれども、良人に内證の臍線をもつてゐる妻の  
罪も大きい。月末ごとに家庭の收支決算は、二人で算盤と鉛筆  
をお持ちなさい。どちらへ任せきつてもわるい。一人だけの計  
算をしてゐたらよしませう。

第四十六條 異性を賞め過ぎないのが秘訣

良人の前で、他の男子を賞めるとき、妻の前で他の婦人を讃へるときは、餘ほど控目にするがよろしい。どうかすると、飛んでもない皮肉に聞えたり、思ひもしない當擦りになつたりする。度が過ぎると、氣持を悪くするばかりでなく、『はてな？』をかしいぞ。『何だか變だわ？』にならぬものでもない。愛すればこそ、氣が揉めるものですから。

第四十七條 良人を寂しく働かせぬが秘訣

家庭の内にある妻でも、良人と一緒に、外で働いてゐることを忘れてはならない。社會に於る良人の表情や、言葉や、服装や、態度には、妻の氣分や性質が映つてゐるものだ。汚れたハンケチを良人に持たして出して、自分は家で、香水を振つてゐるやうであつたら、良人は外で寂しく働いてゐる。遂には悪いところへ足踏しないでない。御注意肝要のこと。

第四十八條 極りと共に潤ひの調和が秘訣

規則が立つて、極りが良くても、潤ひがない家庭には、和合の天使が訪ねて来ても歸つて行く。今直ぐに捨て、おけぬ用事のない限り、夕食後の時間だけは、夫婦と子供の時間にしませう。食べてしまつたら立上る家庭では、和合の天使も立上つて行く。家計簿の欄に娯樂費の記入と、日課の中に和合時間は、一圓と三十分でも、なければならぬ。

第四十九條 鼻下の長短を考へるのが秘訣

女性を崇拜するといつて、愛妻を床の間の置物のやうに待遇する、鼻下長加答兒の良人は、妻を増長させないまでも、人形の妻から眞の和合は獲られない。女房の臀に敷かれるものかとかんで、愛妻を釜や鍋や箒の化身のやうに扱ふ鼻下短加答兒の良人は、妻を泣かせないまでも、疲れた妻から眞の和合は獲られない。盡きぬ和合愛は良人の鼻の下にある。

第五十條 喧嘩にも禁句を出さぬが秘訣

どんな喧嘩のときでも、妻の容貌を悪く言ふのと、良人のもつてゐる自惚をやつゝけるのは大嚴禁です。嚇と怒つた、心にもないその場だけの言葉でも、とかく喧嘩の後まで相手の魂に傷を残すのは、右の種類の悪罵や嘲りです。萬一にもこれが出たら、『はゝあ始めたな。』『また始まつたわ。』くらゐのところで、あつさりと聞流す方がお伶俐です。

第五十一條 妻の敏感に對して鈍感が秘訣

妻の健全な敏感は、家庭の生命である。だから家庭のことは、良人が妻よりも鈍感な方が望ましい。そこでコセくと、良人が自分の神経を家の隅から隅まで振廻すなら、二人の調和を破らすにはゐない。お互に適度なところを守りませう。良人は不精でなく鈍感に、妻はヒステリックでなく敏感に。さてあなたの御家庭は、この何方でいらつしやいますか？

第五十二條 同時満足を與へることが秘訣

嘗めるやうに愛しながら、肝腎の場合、自分ばかりで満ち足りて、いつも妻に不満を感じさせる我儘千萬な良人が少くはない。良人の利己の中で何よりも呪ふべきものは、この我儘である。すべて何事にも二人の同時満足こそ、和合圓滿の最大秘訣である。相互扶助といふ法則は、動物の世界にも行はれてゐる。まして人間の夫婦間には、これを忘れて和合はない。

第五十三條 部屋の氣分を變へるのが秘訣

少くとも三月に一度は、家具の配置を變へませう。机一臺の位置が新しくなつても、部屋の氣分が更なるもの。ほんの小さな氣づかひで、一輪挿しの花瓣からも、家庭和樂の光が輝いてきます。かうした愛の氣づかひから、趣味の同化も生れます。清潔で愉快で、美しい空氣が、何もしないで湧いて來ると思つてゐてはならぬ。不精と油斷の報いは倦怠です。

第五十四條 春の日光のやうな忠告が秘訣

強い風が吹いたら外套の襟を立てた男も、日光が暖めたら、外套を脱いでしまったといふ話があります。妻の悪い習慣を、良人が怒つて直させようとしたり、良人の悪癖を妻が極めつけて、よさせようとするなどは、餘り效目のないものである。愛で氣永く暖めて、それとなく氣をつかせるやうにする方が、和合を損ねずに、結局は早い效目があるものです。

第五十五條 お皿の數を同じくするが秘訣

食卓に二人は同じお皿を並べなさい。自分だけ特別の皿に満足する良人、『あなたはお肉？ あたしはお魚』と言ふやうな妻があつたら、和合の天使は、もうその食卓に後を見せてゐる。夫婦の舌の同じ満足！ 妻の調理の苦心も、このために。良人の享樂もこの同じ皿の上に。和合の秘訣は、舌の神経が生みだすものです。

第五十六條 生理的變化に注意するが秘訣

『なぜ僕の妻は、時々、気が沈んだり、むやみに興奮したりするんだらう？』と考込む良人が少くない。けれども、それは何といふ愚かさだらう！ 愛妻の生理的變化に、そして、それから來る氣分の激變に、よく氣をつけて行く良人、そしてその妻にいたはりと、慰めを與へる良人こそ、賢くも和合の心得のある『良人』の資格をもつ者である。

第五十七條 送り出したときの氣分が秘訣

『行つていらつしやい。』と、良人を送り出して、ほつと息をつくと奥様はお氣をつけなさい。その息は悪魔のもです。良人の歸宅時間が定まつてゐても、愛別の哀しみを感ずる奥様は、和合から和合へすゝむ賢夫人です。『あたし達は本當に愛し合つてゐるか知ら？』と疑ひが萌したら、良人を送り出したときの互の氣分を、ちよつと考へて御覽なさい。

第五十八條 告白と相談と理解するが秘訣

如何なるときにも、眞實の告白、徹底した相談、完全な理解、これが結婚生活の三大憲法である。ところが、まあ好いからとか、面倒臭いからとか思つて、言ひたいことも言ひ残し、聞きたいこともそのまゝにし、解らないところも捨て、おいたりしでは、底の底まで和合する方法に外れてゐる。思ひがけない禍ひの根を残さぬため、三大憲法は必ず守りませう。

第五十九條 夫婦喧嘩を善用するのが秘訣

争ひは理解を深めるものです。夫婦喧嘩が直つたら、考へて御覽なさい。「成程さうだつたのか。」『まあ解つたところがあるわ。』と、一つや二つは思ひ當ることがある筈です。このときの、喧嘩の後の微笑こそ、尊いものだと気がついたら、雨降つて地固まる。固まつた夫婦愛を、もう壊さないやうに、尊い微笑を續けませう。喧嘩をしたら善用なさい。



### 第六十條 子供本位に和合するのが秘訣

妻の愛情が子供中心になつたと、不平を感じる良人は、自分がどんなにして母の愛に育てられたかを、眞面目に考へてみると好い。自分がもう父になつてゐながら、妻のもつ母性愛に感謝しないやうなのは、まだ父としての自覺が浅いからだ。子供が生れたら、和合の中心は子供本位に！ こゝに夫婦愛が深められて、本當に切つても切れない仲といふ味が出る。

### 第六十一條 家庭の目的を定めるのが秘訣

空想でも好いから、將來の理想を二人で、一緒に語り合ひませう。さうして本當に實現し得る理想を立て、二人がそれへ進まうとするなら、尙ほ更に結構至極。この和合の樂しみには光がある。目的のない生活は悲しい。さて、あなたの御家庭の生活目的は？ お二人が口を揃へて、これと明白におつしやるなら、何といふ立派な和合でせう！

第六十二條 夜間に優しさを持越すが秘訣

日光のある間は極く優しくても、夜になると暴君か猛獸のやうになる良人が少くない。呪ふべき暴君よ！晝の間の優しさを、夜半へ持越してこそ、妻に和合の悦びを喚び起さしめる秘訣である。『僕は妻を虐げてゐない。』と言つてゐる良人も考へてください——あなたは本當に晝も夜も、その言葉どほりの良人ですか？ 果してさうですか？

第六十三條 愛情を檢温してみるのが秘訣

良人は社會に出ても、妻の魂と一緒に働いてゐることを忘れてはならない。これでこそ、夫婦は一心一體といへる。家庭に歸つて來て始めて、妻の存在を知るやうな、良人の愛情にはむらがある。『君は僕の愛妻だ！』と良人が言ふなら、『あなたは家庭の外でも私を愛してらしつて？』と尋ねて御覽なさい。このときの偽りなき返事こそ、良人の愛情の寒暖計です。

第六十四條 縮なき方へ感化されぬが秘訣

二人とも儉約家であることが望ましい。これと反対だと永い和合は保證されない。そこで一方が財布の口にだらしない性分だつたら、一方は吝なほど縮らなければいけない。この結果には重大な價値がある。だらしない方が勝つたら悲觀だ。縮る方が勝つたら樂觀だ。夫婦は同化すべしといつて、縮りのない方へ感化されたら、永い和合は望めない。

第六十五條 氣分の變なときの外出が秘訣

朝夕の互の顔色や氣分に、敏感であることは望ましい。といつて、探りあひや、一人だけで批評して見るやうな、他人らしい眼をするのは嚴禁です。厭氣がさすのは、この眼から來ることが多い。氣持が離れかけたと氣がついたら、二人が一緒に遊びに出かけるに限る。氣が合つてゐるときばかり、二人で外出しないで、變なときこそ、試しに行つて御覽なさい。

第六十六條 異性の客には馴れないが秘訣

良人を訪ねて来た男の客を、妻が歡待する積りでも、馴々しくもてなしたり、妻を訪ねて来た婦人客の前へ、無暗に良人が出しやばつて喋りつゞけたりは、どちらもお控へなさい。大いに御圓滿振りを見せた積りでも、お客が歸つてしまつた後になると、『どうもお前はやりすぎるよ。』『あなたは何て人てせう。』といふところから火の手が上るものです。

第六十七條 お互に身じまひの清さが秘訣

どんなに深く理解し合つてある愛人同志の夫婦仲でも、髭も碌に剃らずに、爺くさい良人になつたり、寐くたれ髪も取上げずに、眼脂の残つてゐる妻になつたりは、いつのときにも嚴禁である。もしもそんな顔を見たときは、片時も黙つてゐないで、直ぐ一方から言ふに限る。けれども、言ふときは、興ざめた顔をしないやうに、機嫌よくたしなめなさい。

第六十八條 唄へば合せて踊る呼吸が秘訣

ピアノでもオルガンでも何でも、妻が弾きだしたときに、良人は傍で聴いてばかりゐずに、教はるがよろしい。どら聲でも唄ふことができたなら尙ほよろしい。或は何でも構はないから、踊りだすくらゐの滑稽さがあつたら、更によろしい。妻が下手でも、折角弾いたり唄つたりしてゐるのに、シンネリムツツリしてゐることは、和合の道ではない。

第六十九條 良人のみやげを抱くのが秘訣

良人が、折角買つて歸つて来たみやげを、『あら、こんな物。』など、言つてしまふ妻は、意氣込んで来た良人を失望させる愚妻である。たとひ物は何でも、さうした良人の親切に感謝なさい。男の買物は大抵氣のきかないものである。しかし、十銭のチョコレートでも、妻がそれを抱きしめたら、まあ良人の情愛は、このときどんなに燃えるだらう！

第七十條 愛想づかしを言はぬのが秘訣

大概の家庭は圓滿で、自分のところだけ喧嘩してゐる、と思つたら大間違だ。初めから終りまで仲の好い夫婦は、一人もな  
いと思つてよろしい。だから、ちよつとした機みて、愛想づか  
しを言ふことは慎しみなさい。喧嘩する閑のあることに気がつ  
いたら喜びなさい。世の中には生きるために、喧嘩する閑さへ  
なく、切々と働いてゐる夫婦もあるのです。

第七十一條 内外の苦しみを知合ふが秘訣

楽しいことよりも、苦しいことを打明け合ふ習慣、この習慣  
を新婚のときからつけておくのが、何よりも和合の礎である。  
家庭の外の苦しみは良人の心に、家庭の内の苦しきは妻の胸に  
と、隠しあつてゐた古風な真似はよしませう。楽しみだけを一  
緒にして、苦しみは別々にするところから、和合の土臺が崩れ  
だした實例は、世間に少くないのですから。

第七十二條 妻の告白と良人の悔改が秘訣

良き経験は智慧の母といふ眞理は、夫婦の性的生活に重大な意味がある。これと反對に、悪い経験は倦怠を生む。だから、夫婦愛に幻滅の哀しみが來たら、性的生活に智慧のない、悪い経験を重ねてゐないかを、互に打明けて、相談するのが何よりである。このとき、先づ十中の九まで良人の方に罪がある。妻の告白と良人の悔改も、和合の秘訣である。

第七十三條 連出して爆發させぬのが秘訣

どうも近頃は愛妻が變な顔をしてゐる、と氣がついたら、この前一緒に遊びに出たのは、何時だったか知らん？と、氣の利いた良人なら直ぐ考へる。そして無理にでも、愛妻を連れ出すがよろしい。たとひ半日の散歩でも、ちよつとした食事でも、外の享樂は、家庭の氣分を明るく變へるに有效だ。愛妻を家にばかりくすぶらしておく、きつと爆發する。

第七十四條 良人の同情心と氣轉とが秘訣

歸つて來ると、部屋中に着物を脱ぎ散らす良人に限つて、妻が水仕事であかぎれを切らしてゐても、リスリン一瓶買つて來ることも知らない。臺所まで立入つて、コセ／＼するのは嚴禁だが、鷹揚すぎて、同情のない投遣りも嗜むべきである。新聞を讀んだら壘み、靴を脱いだら揃へる。些細なことが、忙しい妻を助けて和合の種子になるものである。

第七十五條 良人は女中なごを願ぬが秘訣

女中さんがゐる家庭ならば、その全權は、妻の手にあるのが本當だ。女中さんのことに、餘計な口を出す良人は舌を慎むべし。女中さんの眼から見ても、『何だか怖い氣のする旦那様』『ちつとも私に口をきかない旦那様』そして、『私は本當に奥様が羨しい』とあつたら、この良人は、和合秘訣の一端を確かに心得ていらつしやる。



第七十六條 良人が成功のとき握手が秘訣

良人が世間で成功しかけてきたら、そのときは危険期です。しつかりと夫婦の手を握り合せなさい。なぜかなら、良人に外の誘惑が多くなつてゐるときです。社会では充分に成功してゐながら、家庭生活は不幸な實例が多過ぎるほど多い。その原因は、良人の成功を悦ぶ餘りに、氣を許した妻、誘惑に引掛つた良人。それと和合が破れたからです。

第七十七條 健全な享樂を求めるのが秘訣

健全でない享樂に耽り合ふことが、愛の證明であるなど、思つたら、以ての外の誤解である。不健全な方法で、何うして眞實な幸福が握れよう。眞面目な、高尚な心の夫婦同志ならば、享樂にも慎しむ深いのが眞實です。とりわけて、新郎新婦の悦ばしい方々よ！健全は永續の基、健全は満足の基、性的健全は和合の秘訣である。

第七十八條 感謝の意を表現するのが秘訣

どんなに良くされても、『有難う！』と言ふことを知らない良人は、妻の心盡しを、手放してしまふ不幸な男だ。妻に晴々した顔つきをさせ、ソハ〜と妻を悦ばせ、いつも若い血潮を妻に躍らせてゐる幸福な良人は、『有難う！』と言ふことを知つてゐるからだ。と同時に、いつも晴々と悦びたい妻は、良人に心から『有難う！』を言はせなさい。

第七十九條 悦んで不平を聞き合ふが秘訣

どんな不平でも聞き合ひませう。その代り、家庭の外では愚痴を言はぬこと。良人がふん〜ししたら、『私の他に言ふ相手がないんだから。』と安心なさい。妻が當つてきたら、『世界で當られるのは己一人さ。』と顎を撫で、よい。不平も愚痴もないところには、向上もない。また言ふ方は、良人なればこそ、妻なればこそ、遠慮なく言へるのを悦びなさい。

第八十條 子供を偏愛しないことが秘訣

父は女の子を、母は男の子を、或は、一方が上の子を、一方が下の子を、愛しすぎる傾きに気がついたら、一日も早く偏愛を慎しまねばならぬ。かういふときは、一方が自分だけは愛情の公平を、最後まで守り続ける他に、救ふ道はない。『あなたが花子を可愛がるから私は太郎を。』となると、二人共愚かな親になつて、然も完全な和合は望めない。

第八十一條 魂の眞實を獻げ合ふのが秘訣

社會に於ける才能や働きて、妻の信頼を獲ようとするなら、まだ不足だ。妻の願ひは、それ等と一緒に、良人の眞實な愛撫である。表情や談話や服装や化粧や料理などで、良人の愛を繋がうとするなら、まだ足りない。良人の望みは、それ等と一緒に、妻の眞實な奉仕である。二人が眞裸になつても、心から愛し得るやうに、魂の眞實を獻げ合ふ他に秘訣はない。

第八十二條 妻の輕蔑を未然に防ぐが秘訣

良人が妻の前で、自分を偉い者に見せる必要を感じだしたら、危険期に近づいてゐると思つていゝ。このときは偉がりを百萬遍言ひ出すよりも、黙つて、妻の輕蔑を回復する工夫に掛るのが上策である。「君は僕を輕蔑してゐるね？」などは、猶ほ失敗だ。このときこそ、良人の沈黙は尊い。不言實行で、妻の信用を取返すべきである。吳々も御用心あつて然るべし！

第八十三條 抑制の慎みを忘れぬのが秘訣

新婚當時の、靈も肉もふるへるやうな悦びと感激が、薄れかかつてきたら、それを持ち續けようと工夫するよりも、抑制の慎み、これを忘れてゐないかを、二人ともに考へて御覽なさい。何年経つても、愛の悦びは抑制のうちから生れる。まことに抑制そのことは、夫婦間の美德であつて、殊に新郎の大きな義務である。こゝから和合の旨味が永續する。

第八十四條 料理のお手際を賞めるが秘訣

妻が折角作つて出した料理を、ムシヤクシヤと食べてしまつて、ケロリとすましてゐる良人は、何といふ張合のない鈍感な男だらう！ 旨かつたら旨かつたと、よろしく言ふが好い。「あゝ旨かつた！ 君に限る。」と、この一言で、妻の苦心は報いられ、この次の食卓は、もつと賑しくなる。妻の調理のお手際を進めるのは、良人にも責任がある。

第八十五條 探偵のやうにならぬのが秘訣

氣に入らないところが眼についても、直ぐに探偵のやうな冷い眼をするのはよしなさい。見れば見るほど、缺點は猶ほ缺點に見えてくるものですから。さういふときは探偵を止めて、愛護者になるのが秘訣である。どんな缺點や短處でも、長い間に愛で直らないものはない。このときこそ、愛の試煉の大事なきてである。忘れても探偵になつたら和合は最後である。

第八十六條 不満は黙つてゐないのが秘訣

良人への言ひ知れない不満、親友にも、兄弟姉妹にも、親にも打明け得ないそれがあるなら、誰といふよりも、良人その人へ打明けけるのが、どんなに耻かしくても、和合の近道です。良人はこのときに、意外な事實を発見するだらう。そして妻の満足は、良人自身の満足を二倍にする原則を、早く良人が會得しなければならぬ。どんな場合でも、妻の沈黙は考物です。

第八十七條 新婚の悦びを語合ふのが秘訣

新婚の夜の悦びを忘れない夫婦は幸福である。この想ひ出は新鮮な力を生みだし、いつも二人を若やがせる妙薬だ。しかし、この薬の効能は、黙つて想ひ出してゐるときよりも、互に語り合ふときこそ、神秘的に效くものである。少し御機嫌がわるいと氣がついたら、この妙薬を用ひるのに限る。幾年たつても、幾人子供が生れても、効能に變りはない。

第八十八條 遠慮せず疑を晴すのが秘訣

若しも疑はしいことが胸に湧いてきたら、今日といふ今日、直ぐに問ひ尋ねてみるのが何よりです。『もう少し様子を見てから。』とか『私の邪推ぢやないか知ら？』などは、他人なら知らず、夫婦の間には有害な遠慮です。かうした遠慮をしてゐるうちに、取返しつかない破目に陥つてゐる實例は、餘りに多い。禍ひを防ぐためには、遠慮を捨てなさい。

第八十九條 起床就寢を同じくするが秘訣

どうしても餘儀ないときの他は、なるべく同じときに寢床から起き、同じときに寢るのがよろしい。一人が夜更し、てゐるのに、一人が早く寢てしまつたり、一人が起きて働いてゐるときに、一人がまだ寢坊してゐたりは、とかくに和合を傷け易いものである。起床と就寢を一緒にしてゐる夫婦で、仲の悪いといふ例は、まだ一度も聞かない。

第九十條 喧嘩は忘れてしまふのが秘訣

まるで思ひがけないことが、夫婦喧嘩の動機になる實例は少くない。だから喧嘩が終つたら、その原因がまだ残つてゐないかを考へてみるのが肝腎です。残つてゐたら、二人とも冷静になつてから、相談して解決なさい。残つてゐなかつたら、前の喧嘩は皆なサッパリと忘れなさい。何月何日に何の喧嘩をしたなど、覚えてゐる人に限つて、また喧嘩する。

第九十一條 精神生活を豊かにするが秘訣

夫婦の性格が、日のたつにつれて似てくればくるほど、二人の品性は共に向上するか、下落するか、どちらかの道を辿るものである。向上すれば和合も進み、下落すると喧嘩も多くなる。たとひ貧乏でも仲が好かつたら、精神生活は豊富になり、有り餘る財産があつても、二人の仲が面白くなかつたら、本當の價値は貧弱だ。互の修養が和合の秘訣である。



第九十二條 潔き詫言と快き許しとが秘訣

愛妻の御機嫌が直らぬからといって、跪いて拜むやうな技巧が、和合の手段だと思つてゐる良人は、誤れる妻惚兒だ。また自分が悪いと氣がついてゐながら、詫びるのは權威に係るなどと頑張つてゐるのは、誤れる鼻下短兒である。けれども、良人に潔く詫びられたら、男の顔をたて、妻は機嫌を直すこと。これも和合の秘訣です。

第九十三條 病氣のときに注ぐ情愛が秘訣

病氣のときに受けた親切こそ、忘れ得ないものである。ところが、『丈夫なときはチャホヤしても、病氣になると、何にもしてもくれないわ。』と、妻にこぼさせる良人が少くない。良人が病氣したときに、妻が獻げた真情の半分でも、良人の情愛が病める妻に注がれたら、感じ易い妻の悦びと感激は、二倍にも四倍にもなつて良人へ返される。病氣は和合の試金石である。

第九十四條 妻の義務を強制しないが秘訣

妻が病氣のとき、生理的變化の期間、妊娠四ヶ月以後、少しでもイラ／＼する良人があるなら、これは何と利己主義な男だらう！ かうした良人のイラ／＼しさは、日頃の彼の愛が上調子であることを、雄辯に物語るものである。以上のときに、『妻の義務』よりも『良人の義務』が守られたら、和合の鍵は良人の手に授けられる。

第九十五條 財産を二人名義にするが秘訣

家の財産や貯金が、幾分でも妻の名義になつてゐるなら、家庭の基礎は安全である。それが多ければ多いほど、猶ほよろしい。『金が仇の世の中』など、厭な言葉もある人生に、この分配を妻は良人に一任し、良人は妻に快く分け與へてゐる家庭なら、和合の天使は微笑するばかりである。愛は一任し、愛は快く與へる。未だなら、直に實行しませう。

第九十六條 涙を見たら神聖な親切が秘訣

何が何だか解らないことに、何時までも泣いてゐる妻がある。そして、その原因をしつこく問ひたゞす良人の心配も無用なことである。なぜかなら、原因は妻自身も解らずに、啜り泣いてゐるのだから。けれども、かういふことが續いたら、妻の性的生活が果して完全に行はれてゐるかを、良人は直ぐに反省するがよろしい。良人の神聖な親切が最良の薬である。

第九十七條 古家具の思切つた整理が秘訣

想ひ出の記念になる物は格別として、役にたゝない古家具は思切つて処分するのが上分別だ。それと共に、無くてならない物は、良く相談して買ひ調へるのが好い決心である。すると家の中の能率を擧げて、互の氣分を新しくさせる。どこを見廻してみても、ゴミく〜と古物ばかりが同じ様子をしてゐる家庭だと、夫婦の氣分にまで倦きが來て危険です。

第九十八條 寫眞物語に興し合ふのが秘訣

少年時代と少女時代の總ての寫眞を比べ合せて、二人の生ひ立ちを語り合ひ、また親類や友人のあらゆる寫眞を示し合つて、様々に打興じることが、互の今までの境遇や想ひ出や、その他の理解を深める楽しい有效な方法です。これは夫婦が『自分』を説明し合ふ直接の手段であり、そゞろに現在の幸福を自覺し合ふ秘訣です。未だなら早速始めませう。

第九十九條 癩癩の共鳴を控へるのが秘訣

妻が沈んでゐるので、良人まで癩癩を起してしまつたら、または、良人がイラ／＼してゐるので、妻までプリー／＼しだしたら、結果は犬も食はぬことになる。かういふときに引入れられないやうに、そつと自分を守つてゐる方が、平和の勝利者になる。そして何處かへ、二人で一緒に遊びに行くのが何よりである。癩癩やプリー／＼の共鳴だけはよしませう。

**第百條 子供は夫婦で教育するが秘訣**

子供の教育に熱心な妻を見て、『なるほど、賢母だ。』など、悦に入つてゐながら、自分は案外子供教育に冷淡な良人が少くない。妻は良人が自分を愛してくれるよりも、子供を愛してくれるのを悦ぶもの、これが母性の尊い本能である。だから子供は親が揃つて教育しませう。子供教育に良人が熱心である限り、妻の愛は倍加して、良人へ獻げられる。

昭和二年八月十五日印  
昭和二年八月廿四日發行

定價六拾錢

主編 主婦之友社編輯局  
東京市神田區駿河  
町十四番地

發行所 東京市神田區駿河  
町十四番地  
石川武美  
竹内喜太郎  
東京市牛込區蓮町七番地

印刷 日清印刷株式會社  
東京市牛込區蓮町七番地

發行所 東京市神田區駿河  
町十四番地  
主婦之友社  
電話東京一八〇番

主編 主婦之友社編輯局  
東京市神田區駿河  
町十四番地

發行所 東京市神田區駿河  
町十四番地  
主婦之友社  
電話東京一八〇番

印刷 日清印刷株式會社  
東京市牛込區蓮町七番地

主婦之友社編輯局  
主婦之友實用百科叢書

(御入用の方は主婦之友社または各地の書店にお申込みください)

叢書發行に就て

- (一) これまでの書物は、一つの必要なことを知るために、多くの不必要なことも含まれておりました。この叢書は必要
- (二) 必要なことだけを、手早く知ることをできます。
- (三) これまでの書物は、読みかたがわからず、わがりにくい説明をしてあるやうに、楽に読めるやうに書かれています。
- (四) これまでの書物は、定価が高いために読みたかと思つても、読みません。この叢書は、一冊僅か六拾錢であ
- (五) ります。この叢書は、折角読んでいただかぬやうな説明を省き、必要なことだけを、簡明に書いてあります。

【第一篇】 現代婦人職業案内

【第二篇】 毎日のお惣菜料理法

一年十二ヶ月のお惣菜料理法を、毎月一冊ずつお送りいたします。毎月一冊ずつお送りいたします。毎月一冊ずつお送りいたします。

定価各冊六拾錢・郵税各冊四錢

主婦之友社編輯局  
主婦之友實用百科叢書

(御入用の方は主婦之友社または各地の書店にお申込みください)

【第三篇】 ニキビとソバカスの療法

【第四篇】 草花の上手な作り方

【第五篇】 テニスの上達法

【第六篇】 家庭で實行される利殖法

【第七篇】 良人操縦の秘訣百ヶ條

ニキビとソバカスの療法：この本は、皮膚科の専門家で、ニキビとソバカスの原因と治療法を詳しく説明しています。草花の上手な作り方：この本は、草花の作り方を詳しく説明しています。テニスの上達法：この本は、テニスの上達法を詳しく説明しています。家庭で實行される利殖法：この本は、家庭で實行される利殖法を詳しく説明しています。良人操縦の秘訣百ヶ條：この本は、良人操縦の秘訣百ヶ條を詳しく説明しています。

定価各冊六拾錢・郵税各冊四錢

(御入用の方は主婦之友社または各地の書店にお申込みください)

主婦之友社編輯局  
主婦之友實用百科叢書

〔篇八第〕	〔篇九第〕	〔篇十第〕	〔篇十一第〕	〔篇二十第〕
夏の男児洋服の作り方	夏の女兒洋服の作り方	全國温泉旅行案内	水泳の上達法	盛花と投入の生け方
洗濯が自由で、経済的で、涼しいと洗うのが向きの洋服。男児の洋服は、洗うのが楽なものがよい。本書は、男児の洋服の作り方を、洗うのに便利な素材、縫製の手順、型紙の作り方を詳しく説明している。男児の洋服の作り方を、洗うのに便利な素材、縫製の手順、型紙の作り方を詳しく説明している。	女の子の洋服は、美しく涼しい洋服。夏の洋服は、洗うのが楽なものがよい。本書は、女の子の洋服の作り方を、洗うのに便利な素材、縫製の手順、型紙の作り方を詳しく説明している。女の子の洋服の作り方を、洗うのに便利な素材、縫製の手順、型紙の作り方を詳しく説明している。	本書は、温泉旅行の案内書として、温泉の所在地、温泉の種類、温泉の楽しみ方、温泉の歴史などを詳しく説明している。温泉旅行の案内書として、温泉の所在地、温泉の種類、温泉の楽しみ方、温泉の歴史などを詳しく説明している。	本書は、水泳の上達法を、泳ぎの姿勢、泳ぎのスピード、泳ぎの持久力などを詳しく説明している。水泳の上達法を、泳ぎの姿勢、泳ぎのスピード、泳ぎの持久力などを詳しく説明している。	本書は、花の生け方の基本から、季節の花の生け方、花の生け方の楽しみ方などを詳しく説明している。花の生け方の基本から、季節の花の生け方、花の生け方の楽しみ方などを詳しく説明している。
定価各冊金六拾錢・郵税各冊金四錢				

来て到着いたしませんから、その際は暇御承知お返しを願ひます。  
(三) この頃は郵便物の不着や紛失等の事故が甚だ多いので、互に迷惑を蒙ること少くありません。

それ、若しも主婦之友社(又は主婦之友社代理部)に御送金になつて、相當の時日が経つても御註

欄外注意事項に反するときには郵便局にて受付を断ることをあらし

票 查 監			口 座 番 號	局 番 號
名 人 拂 込	※ 一 金	氏 加 入 者 名	東 京 一 八 〇 番	受 付 番 號
※		主 婦 之 友 社		
印 附 日 廳 管 所 座 口			印 附 日 局 付 受	

六ヶ月保存

数字は必ず楷書、文字は正確明瞭に書くこと

票 込 拂			口 座 番 號	局 番 號
名 所 人 拂 込	※ 一 金	氏 加 入 者 名	東 京 一 八 〇 番	
※		主 婦 之 友 社		
印 附 日 廳 管 所 座 口			印 附 日 局 付 受	

一年保存

各票金高に相違なきことを必ず確むること

票 知 通 込 拂			口 座 番 號	局 番 號
名 所 人 拂 込	※ 一 金	氏 加 入 者 名	東 京 一 八 〇 番	
※		主 婦 之 友 社		
印 附 日 廳 管 所 座 口			印 附 日 局 付 受	



数字は必ず楷書、文字は正確明瞭に書くこと

拂込			票		
口座 番	加入者 氏名	拂込 人住所 氏名	※ 一金	口座 番	加入者 氏名
東京一八〇番		主婦之友社			
印附日局付受					

一年保

各票金高に相違なきことを必ず確むること

拂込通知			票		
口座 番	加入者 氏名	拂込 人住所 氏名	※ 一金	口座 番	加入者 氏名
東京一八〇番		主婦之友社			
印附日局付受		印附日總管所座口			

金額を訂正せざることを

受領			票		
口座 番	加入者 氏名	受領 人住所 氏名	一金	口座 番	加入者 氏名
東京一八〇番		主婦之友社			
印附日局付受					

※印を附しある部は拂込人に於て記載すること

# 愛讀者諸姉へお願い

△毎月缺かさず読むやうに豫約購読に願ひます。  
 △御近所の雑誌店に豫約購読の申込を願ひます。  
 △本社直接豫約購読申込も極く手軽に出来ます。

「主婦之友」を今後何うぞ引き續き御愛読の法を實行して頂きたいのでございませう。皆様にぜひとも御近所のお店に御申込下さいませ。毎月の発行は早方  
 依頼申したいことは「主婦之友」の豫約購読の法を實行して頂きたいのでございませう。皆様にぜひとも御近所のお店に御  
 のある方は「主婦之友」の豫約購読の法を實行して頂きたいのでございませう。皆様にぜひとも御近所のお店に御  
 込みになれば、その雑誌店に「主婦之友」の豫約購読の法を實行して頂きたいのでございませう。皆様にぜひとも御近所のお店に御  
 は、本第一番の御郵送分三圓半に御送金なす。その御送金の際には、皆様の振替用紙を御使用下さいませ。毎月の発行は早方  
 社代理部も御案内で重宝な家庭用品をお取次ぎしては、皆様の振替用紙を御使用下さいませ。毎月の発行は早方  
 文は本代理部も御案内で重宝な家庭用品をお取次ぎしては、皆様の振替用紙を御使用下さいませ。毎月の発行は早方

(御用向はこゝへ詳細に御記入下さい。お記しがないと間違ひが出来ます。)

(8)

姓名	〒	住所
東京	一八〇	
主婦之友社 御送金		

▲此の用紙にて送金と通信とができます◎文字は明瞭にお書き下さい。

使おを紙用替振の此に金送御の外以件用の文註御誌雑  
 代の品の部理代に際の際の文註御誌雑は又、もてつなにひ  
 。んせまひまかもてつさだく金送御てしに路一御を金

## 主婦之友社 又は主婦之友社代理部へ 御送金くださる方は御覽ください

- (一) この用紙の表面と裏面とに必要な事柄を記し、お金を添へて郵便局へお持ちになれば、そのお金  
 は御用向を書いた紙片と共に振替貯金課を経て主婦之友社(主婦之友社代理部)に御送金の場合でも、  
 主婦之友社宛に御送金くださつてよろしいのです。に届きますから、當方では早速御註文の雑誌なり  
 書籍なり又はその他の品なりを、取り揃へてお送り申し上げます。
- (二) この用紙を用ひて御送金になれば、爲替を組んで書留郵便にして出すと同じやうに、途中で紛失  
 するやうな心配なしに、確實に主婦之友社(又は主婦之友社代理部)に送金することが出来ます。若  
 し途中で紛失するやうなことがあつても、後で調べて発見することが出来ますから、その點は大層重  
 寶で且つ安心であります。但しこの頃は郵便物が延着しますので、普通の郵便より四五日間位お  
 れて到着いたしますから、その點は豫め御承知おきを願ひます。
- (三) この頃は郵便物の不着や紛失等の事故が甚だ多いので、互に迷惑を蒙ることが少くありません。

それで、若しも主婦之友社(又は主婦之友社代理部)に御送金になつて、相當の時日が経つても御註  
 文品が届かなかつたり、雑誌の発行日(大抵毎月十五日頃発行します)が來ても雑誌が届かなかつた  
 ときは、郵便局へお尋ね下さいませ。

(御用向はこへ詳細に御記入下さい。お記しがないと間違ひできます。)

▲此の用紙にて送金と通信とができます◎文字は明瞭にお書き下さい。

使わを紙用替振の此に金送御の外以件用の文註御誌雜  
(代の品の部理代に際の際の文註御誌雜は又、もてつなにひ  
。んせまひまかもてつさだく金送御てしに諾一御を金

### 主婦之友社 又は主婦之友社代理部へ 御送金くださる方は御覽ください

- (一) この用紙の表面と裏面とに必要なる事柄を記し、お金を添へて郵便局へお持ちになれば、そのお金は御用向を書いた紙片と共に振替貯金課を経て主婦之友社(主婦之友社代理部に御送金の場合でも、主婦之友社宛に御送金くださつてよろしいのです)に届きますから、當方では早速御註文の雑誌なり書籍なり又はその他の品なりを、取り揃へてお送り申上げます。
- (二) この用紙を用ひて御送金になれば、爲替を組んで書留郵便にして出すと同じやうに、途中で紛失するやうな心配なしに、確實に主婦之友社(又は主婦之友社代理部)に送金することが出来ます。若し途中で紛失するやうなことがあつても、後で調べて発見することが出来ますから、その點は大層重寶で且つ安心であります。但しこの頃は郵便物が延着しますので、普通の郵便より四五日間位おくれに到着いたしますから、その點は豫め御承知おきを願ひます。
- (三) この頃は郵便物の不着や紛失等の事故が甚だ多いので、互に迷惑を蒙ることが少くありません。

そして、若しも主婦之友社(又は主婦之友社代理部)に御送金になつて、相當の時日が経つても御註文品が届かなかつたり、雑誌の発行日(大抵毎月十五日頃発行します)が來ても雑誌が届かなかつたりしたときは、御面倒ながら御地の郵便局をお調べのうへ、一應當方へ御照會くださいませ。さすれば事故等を調べるにも、一層都合がよろしうございます。

御照會のときは郵便局へお拂込の月日、郵便局名、金額、品名等詳細にお知らせくださいませ。

主婦之友社		
主婦之友賞用		
【第三十第】	【第四十第】	【第五十第】
結婚禮式一切の心得	新式和服裁縫の秘傳 (第一巻 一つ身より四つ身までの仕立方)	新式和服裁縫の秘傳 (第二巻 本巻と裏巻一切の仕立方)
結婚に必要な一切の心得を網羅した本。結婚の準備から結婚式の挙行まで、結婚生活の秘訣まで、結婚の秘訣を詳しく解説。結婚の秘訣を詳しく解説。結婚の秘訣を詳しく解説。	女学生など一週り縫製の秘訣を詳しく解説。女学生など一週り縫製の秘訣を詳しく解説。女学生など一週り縫製の秘訣を詳しく解説。	平常着は自分で縫つても、外出着は他人に任せると、外に出るに不便な服装は少なく、外に出るに不便な服装は少なく、外に出るに不便な服装は少なく。
定価各冊金六拾錢		





# 主婦之友

巻頭から最後のページまで一気に読んでしまへる雑誌は「主婦之友」を  
指して他にありません。発行部数において東洋第一の「主婦之友」は  
その充實せる内容に於いても、到底他の追従を許さぬものがあります。  
また飽くまで讀者を本位とする「主婦之友」は、その記事の徹底的  
に親切なる點に於いても、廣く一般から認められてをります。試みに  
月々掲載される、家庭記事の一つについて御覽ください。如何に家庭生  
活の實際を重んじてゐるか、お解りになることでありませう。言ふべ  
くして實行しがたい、所謂言葉の遊戯は、たゞの一頁も「主婦之友」に  
は掲載されてをりませぬ。何卒最近號を一冊だけなりと御覽ください  
ませ。事實は千鈞の重みをもつて、之を證明いたします。一冊定價五  
十錢、半年分參圓廿錢、一年分六圓廿錢、外國行一年分八圓です。(但  
し特別號の代金並に送料を含む)御購讀のお申込は、最寄の雜誌店か、  
或は葉書を以て直接本社宛お申越を願ひます。

東京駿河臺 主婦之友社發行 掛巻東京一〇八

終

